

談 訪 会 通 信 No.57

東京蜘蛛談訪会

今年は、暖冬のため、梅の花が、みごろのところも多い
ようだ。ウモたるも、やりと、寧ろに冬をこせ、よく
今は、にぎわいをみせると、思ひます。賄賂ばね。
新入会員の方です。 よろしく

笠岡文夫 テ170 懸島庄、北太陽 3-12-21



瀬戸康彦 テ250 神奈川県小田原市飯泉478-7

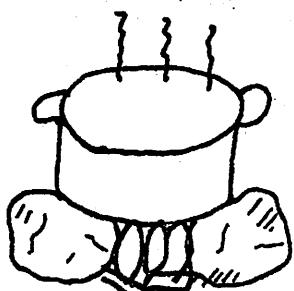
採集・観察会のお知らせ

日：2月15日（日）

集合場所：国鉄鳥沢駅 AM10:00

会費：300円位

当日、お昼に豚汁を作ります。なお、飲物（ジュース等）は各自持参して下さい。



皆様の参加を待ちしております。
会員外の方も是非誘って下さい。



車庫の放逐區
「キシノウエトタテグモの
飼育観察」

2年前、1984年5月17日、午後、家の近くの路上で、キシノウエトタテグモの♀成体を、1個体採集しました。それが、7月の中旬ころ産卵し、8月の中旬ころ、子グモが生まれました。生まれた子グモのうち、5個体を飼育し、(内1個体は85年の4月頃死む)。その後2年を経て86年の9月に、残り4個体のうち、1個体が♀成体となりました。(1986年9月14日、♀成体と確認)。

他の3個体は、触肢・頭胸類・腿節などの外節形態からみて、明らかに♀と思われます。

(♀成体の体長…約10mm)
1%計測

(♀の体長、♀個体とも約10mm前後)

* 1984. 8月 子グモ ハッチ

1986. 9月 ♀成体と確認

約1年11ヶ月でキシノウエトタテグモは、成体になるようです。

そこで、同じ親から生まれたつまどり♂、♀の成体が現れたのだから、♀も成体になるているかもしれないとうな。キシノウエトタテグモの交配時期である。10月の下旬から11月にかけて、これらの♀、♀を交配させようとしたのですが、どうしても♀3個体とも、♀を産卵してしまいます。10月の初旬、夜になると、家の近くをキシノウエの♀成体がよくうろついて

いました。この野外を徘徊中の♀を2個体採集し、早に(飼育中の)接触させてみましたが、これらも拒否しました。

ぶどうく、キシノウエトタテグモでは、♀が成体となる時間よりも、♀の成体となる時間の方が長く、♀は、いずれも、まだ成体とは、でないために、♀を拒否するのではないかと思います。

この接触拒否の様子について少し報告いたします。

平立に入る前に、クモに対して用いた番号と記号などについて申し上げます。

No. 1 .. 1985年4月ごろ死亡

2 } 1984年8月から今まで生存

3 } 幸にする

4 } 5 .. 1986年9月14日
♀成体と確認したもの。

上記のNo. 1 ~ No. 5などは、いずれも、1984年8月から、継続飼育しているものです。

A. 1986年10月1日採集の♀

B. .. 10月4日 "

上記A. Bは、1986年10月に、家のまわりを徘徊していた野外地で採集した、♀成体のクモです。



1986年10月4日(土)

10月4日に採集した舍Bを
使い、No.2との接触をこころめた。

No.2の飼育ビン

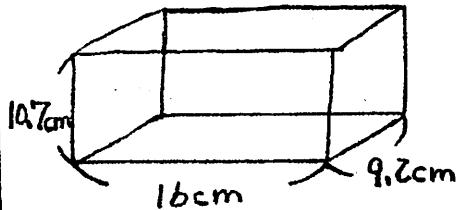
高さ60mm、直径29mmのガラス瓶
中には、土を底から45mmの高さ
まで入れたもの。

住居は、地表のほぼ中央につくられ、
住居のフタの大きさは 幅10mm。

このNo.2の住居のフタをあり、ビン
ごとめて、といらるまいようにして、
舍Bを、飼育ビン内の地表に
おいた。舍がぐにぎないように、
ビンの口には、コレクタを軽く、かた
をしておいた。

暗くすると、舍Bは消えて動きまわり、
体の前半部をNo.2の住居内に入れて、ついに♀を入口までさとり
だした。(がし、今回は、飼育瓶
の直径が小さく、舍Bが十分に
動けず、足場が悪かったため、失敗
した。No.2は、中に入り、出よう
とはしなかった。

1986年10月10日(金)



10月5日(日)に

上記のよな、プラスチック容器に
底から7cmほど土をいれて、No.2
と3の♀をこの中に移し始めた。

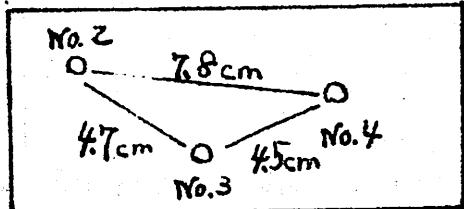
(前のビンでは小さく、せかうたので)
よなのよな容器にした。

△からはじめ、エンピツごと、深さ5~6cm
直径8~9mmの穴をあり、その
穴のそばに、No.2と3の♀を
おいた。そのまじ、クモが逃げ
ないよう、4cmほどの直径の
プラスチック瓶を上からがぶせ、
おいた。

10月6日の夜には、No.2,3ともに
新しい住居をつくり、クモもいた。

なお、No.4の♀も10月16日(下)に
新容器に移し始めた。No.4は、
10月18日(土)には、新たな住居
をつくりあげていた。

容器内ごとのNo.2,3,4の
各個体の位置関係は下図のよう
である。(裏よりみたもの)



住居入口部分の大きさ

No.2	9mm	アフ 10mm
No.3	9 "	" 12mm
No.4	9 "	" 10 mm

入口の開口部分

(いざれも 1986年12月15日計測)

以上のようになつてNo.2と3に、
採集した舍を個別に、シャーレで
下にして行動範囲をせばめた
あと、住居近くに放してみた。

今回、舍は♀に対して接触は
とする行動はとらなかつた。

10月20日(月)

さの成体となつたNo.5のキシウムは、同じ20日(月)の昼すぎ、自分の住居を出で、五井のすみご静止していた。19日の夜から20日の朝にかけて、住居を出て、さよい出したとみられた。

このNo.5のさを17時30分ほどに、No.4の♀の住居附近の地表にあき、8cmほどの大きなシャーレごぶみて、行動範囲をせばめた後、暗いところに移して、様子をみた。

しばらくするとNo.5は、こきごみに触肢を上下に振動させ、No.4の住居のフタをありて、その中へ前脚・触肢を下さいれ、少しつらしたように動かしていく。どうする内に、下がる。No.4の♀が上がり、きてきたらしい。まだ横がら観察しているのだが、♀は住居入口で、歩脚と上方に上げ、今は、自分の歩脚で♀を追え、長い触肢をのばし、激しく動かしていく。

3ヶ月後ご、♀は、♀と離れ、No.4の♀は住居の下の方におり、今は、住居のフタをしめてしまった。今は、♀の住居からは離れて、シャーレの下りご、オーブ脚・触肢を向くもクリーニングしていく。

その後、今日は、No.5のさをNo.2の♀の住居のそばに置いてみた。今は歩きまわっていたが、♀の住居の所にくると、動き方が変化し、前方にのばした触肢を、こきごみに運んで、No.2の住居のフタを、(ぶとく上うごご)、うしぱりはじめた。しかし、今回、No.2の♀は、フタがあがないよう、よきこていたため接觸に反応した。

△先の、No.5のさとNo.4の♀の接觸ごは、確かにみていたのだが、立接が行われたような様子にも感じられた。しかし、その動作がわずか3~4秒しか続かなかたことを考えると、おそらく真の立接は、なされていないとおもわれた。

11月9日(日)

△、No.5のさを、再び♀No.3とNo.4に接觸させてやとした。No.5は歩きまわり、♀の住居のフタの所になると、静止して、触肢の先を振動させ、♀を刺探する。

(住居の周囲、フタを触取る様子)するに、♀は、いずれも住居のフタを、中から強く引いてあります。さを拒否する。

11月20日(木)

△、No.5のさ、Aの♀2個体を複数との接觸をよこした。

No.5は、あまり♀に対して積極的にならなかったので、さAとNo.4とおもひだ。これまでの試みごは、♀は、どの題材もさを住居内に入れる。門前ばかりのけたるを合にとてぞ止め、(合が♀の住居に自然に入れたのは、1/20のNo.5とNo.4との接觸のみである)。直徑8cmほどのシャーレをかぶせ、そのシャーレの下りご、No.4の♀の住居フタをよきこして、どうされないようにして、シャーレの中にさAをいためた。

2013の0時ごろから、さAは触肢を前方にのばし、数秒おきに足の方を上下に軽く振動させながら、No.4の住居開口部の周囲を走らせる。ついでに住居内へ入り込んだ。

しばらくして、再び地元にどどきたが、また中に入り、出たり入ったりを2~3回、みこぼしていた。

ついに♂Aは、後ずさりしながら外に出でてきた。そのうちに♀は、△が現れていた。♀は、△をみて、ぬりきの寄附をとっているようだった。♂Aは、♀の上部づけ跡を触取ごたたいていたが♀は少し住居の中に入ってしまった。

それを追って、♂Aも再度、♀の住居内に、ほぼ全身をいれて、♀の気をひく努力をしていたらしい。

その後、0時頃~8時頃、♂Aは、m.4の住居から出て、急に上げてまた

♂Aを観察したところ、布の触取が止められ、基節を残すのみとなっていた。m.4の♀にとづけていま、正らしく。

(この♂の触取は、1mm大のしづねりと化して、m.4の住居近くに出でていたのを、11月24日(月)に発見)

今回も立候は、先取にみたり、その上、♂の触取の1本を失うといつ被害を生じたため、♂Aを飼育容器に戻した。

△をとけると、m.4の♀は、すぐにのぼってきて、フタをしかつとりそとじこぼした。

以上で、キシウエトタゲモの、♂と♀の接觸行動の状況についての観察の記述を終えたいと思ひます。
↑

前述した日以外でも、(例)同じころみたのどうか、さが♀の住居に入ることがござれば、♀は、早い段階のフタを、シャーレかピンこじらいで、または(例)に(例)開きのみござる。

この日も♀の操作をせり、ただ♂を♀の住居近くに放しした場合は、♀が♀の住居を発見して、そのフタを触取ごたてはじめるところまでにして認知するのか、不思議なのが何いか。ほどなくして住居内部からフタを引そし、かくとといふの侵入を拒否してしまうのです。

今は、♀がまだ成体となるてないことを認知できないのでしょうか。

明らかに♀は、♀の住居を確認すると、積極的に求愛行動をとるようになります。

自然の状態では、♀は♀の♂はランダムに求愛するのでしょうか。そして、うまく成体と接觸しない♀が、立候とするのでしょうか。

このことに関するなにか文献がありましたら、よろしく下さい。

観察の中に登場した♀は、みは1988年12月15日までに死んでし、m.2, 3, 4, の♀3個体が生存し、越冬に入りました。

来年の10月に3, 4, ♀を採集し、再び♀との接觸を試みようと考えております。

2年めまり キシノウエトタゲモを飼育して、感じたのは、地中性の種類。飼育觀察は、その生息場所が、地中の住居内に限られていたため、脱皮や、獲食の様子・産卵などの行動をくわしくみることが、難しいのところ多くて、功夫なしといふことにした。

今、査定、体長の計測も、難しく、あまり正確な生活史を明らかにするよりも、種類ではないかと思われます。ただ、2年めまりの間に、えられた、ごく少ない觀察記録がありまることで、次の機会に、また、お送りしたいと思います。

虹鱒から、貴重な乾鱥をふぶくりいただきました。

たゞ、ハレ飼育しにくく、地中性のキシノウエトタゲモを、2年以上やりて、卵→成体にまで、飼育されたといふことは、まだことに、すばらしいことであると感ひます。おどろくばかりです。

どうぞ、この乾鱥とよまれた骨は、枕にして、いろいろ お手入れしたり、アドバイスをおぶくり下さい。よろしくお願いします。

飼育中の、貴重な写真も、おぶくりいただきのぞむが、誠にやりとりございましが、ほづかせていただきます。

〒157

世田谷区上根町4番

1-40-12-201

虹鱒 匠

* 少年の詩です。

読売新聞 1986年10月22日
—朝刊—

題 黄色いカニグモ

作 石川 かつのり

(千葉県八街町ニ川)小2年)

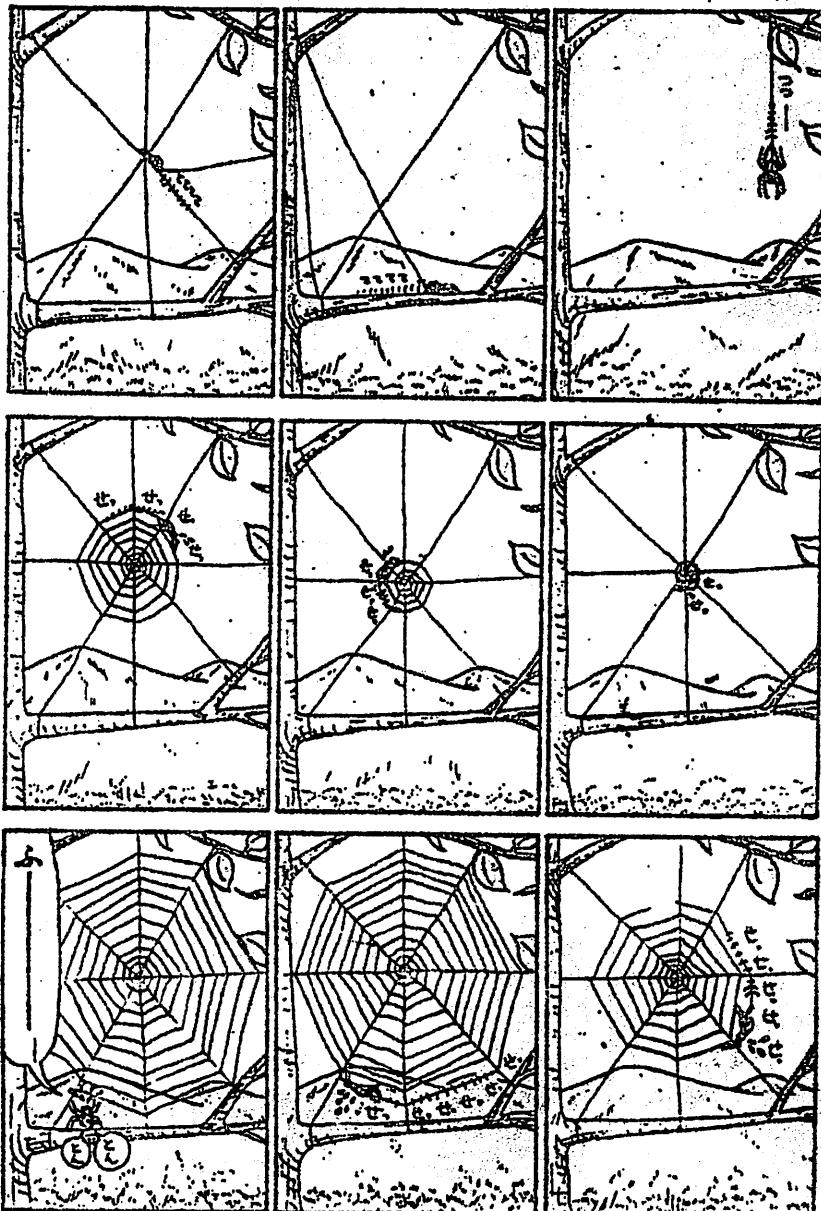
かくと
こうくのヒマワリが
花がさくと
がきました
ぼくと
こうくのヒマワリが
花がさくと
がきました
がめずうしい黄色のカニグモ
すをつくらないと、花の中に
かくれんぼうをしています
小さいけど
花びらとおなじ色なので
どこかゆいいです。

この詩をひいて
川崎洋三さんが次の歌にひいています。
(カニグモは、花がさくのを
ま、こいたのぞります。わたしは、
カニグモを知らないひとと、
さそく本と調べました。
はやく本物を見てみたい。)



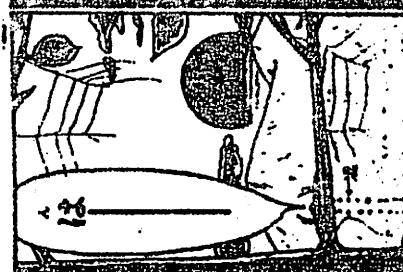
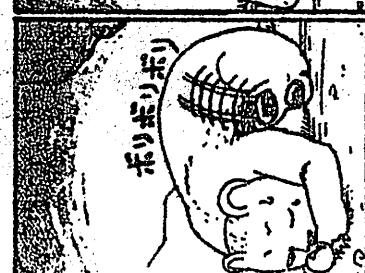
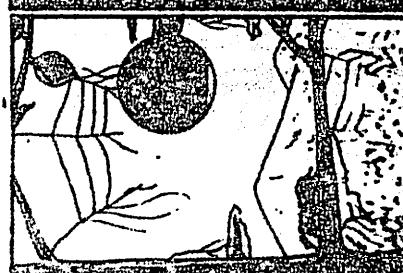
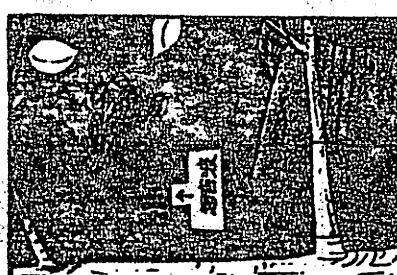
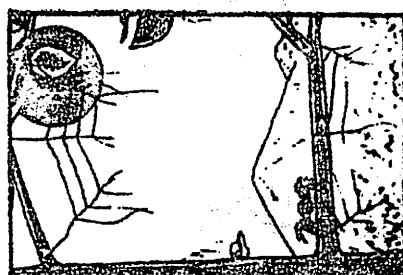
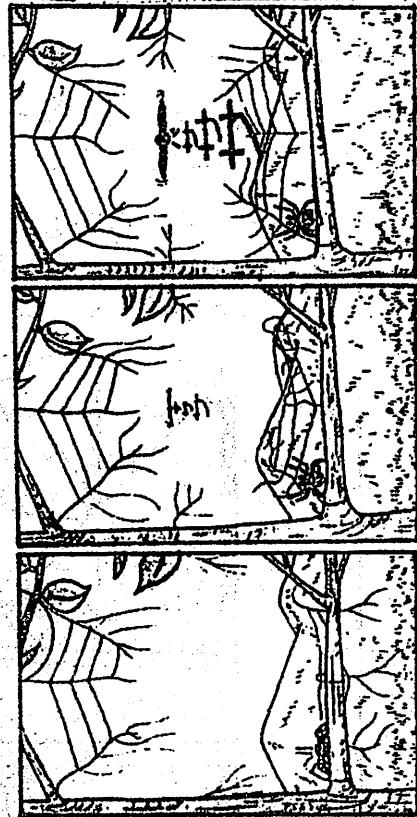
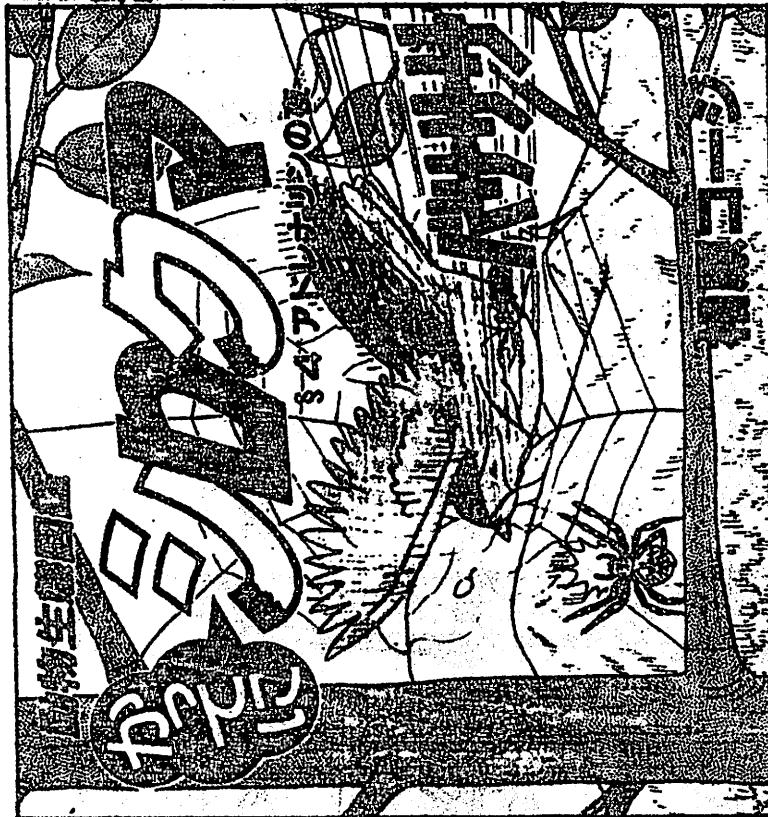
・東京の熊用窓一コレより、つこの描かれてる漫画、たくし
いにどきました。

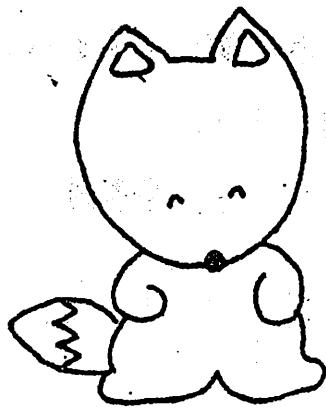
— クモの悲鳴がよく出ていて、思わず笑ってしまいました。エナガや
セッカなどクモの網を利用する鳥もいつか知らなくてはですが
余の収集されたクモの気持ちがあらわれているようです。(熊用) —



漫画アクション 9月17日号 (1986年) この続きを読みたい人は扉を開けなさい

「おおきな蜘蛛がいたてつに泣かれて、お静かでいい。」 愛國アーティスト





会計報告

会費納入状況(敬称略)

59年度 山本一博

60年度 山本一博

61年度 須戸康彦、内田善悟、伊佐地利行、近藤恭子
笠岡文夫

62年度 板倉泰弘、伊佐地利行、近藤恭子、菅波洋平
松田士介

※振り込み先 口座番号

横浜0-1460 東京蜘蛛談話会

※会費

学生 2000円(高校生以下)
一般 2800円

会費の納入はお早めに!

会計についてのお問い合わせ等は下記へ

井上房枝 045(941)3121

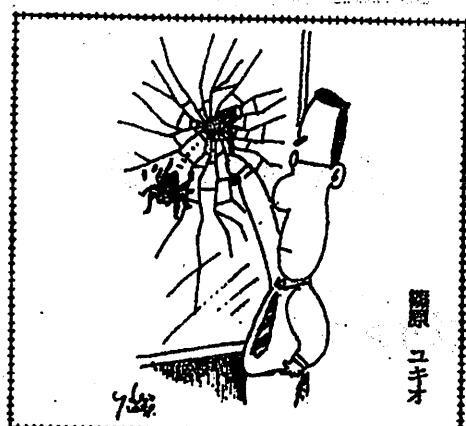
小池牧子 044(588)5422

○ 談話会 伝 言 板 -御自由に御復へ下さい-

- ・ 2月15日(日)の採集会にて運営委員会を行ひます。
議題は、年間計画などです。
また、採集会の場所として良い所がありましたら、事務局まで連絡を下さい。お願いします。
- ・ 運営委員を募集しております。性別、年令等は問ひません。
談話会が好みの方でしたらどうなたでもかまいません。くわしくは、事務局まで。
- ・ 年間計画は次号の通信にてお知らせします。おたのしみに!
- ・ Kishidaiia. ひらげに
通信の原稿を募集
いただけります。

お 告 知 報

当談話会会員の入江桃源氏
は、昨年逝去されました。謹しご哀悼の意を表します。



今更にはいいて、はやいものぞ。
すでに1ヶ月がすぎてしましました。
「光陰、矢の如し」とおね。

お忙しいに、時をすこし
時間を大切に使っていきたいもの
です。今後、み日さまに、より
ういえ見がりますように。

事務局

佐瀬祐司 03(392) 9962
〒167. 杉並区、荻窪3-7-6-207
kishidaiia 業務
熊田寛一 0425(55) 4462
〒190-11 江戸川区、羽村町
羽村美3-6-3

通信稿集

鈴木勝浩 0489(91) 2984
〒343-01 北豊島郡、西荻町
鷺伏3-385

談話会通信 No. 57

編集 鈴木勝浩
62年2月1日 印刷・発行
東京蜘蛛談話会